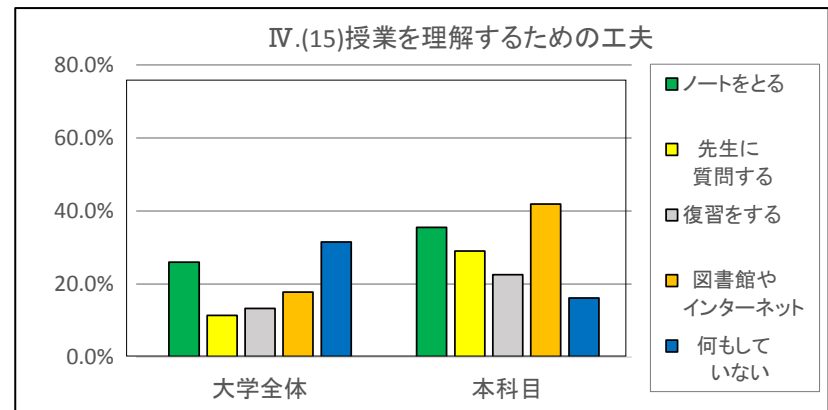


※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2、(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(15)授業を理解するための工夫	35.5%	29.0%	22.6%	41.9%	16.1%



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	I.(1)	3.68	3.45
	I.(2)	3.81	3.56
	I.(3)	3.42	3.07
講義内容・方法	II.(4)	3.29	3.01
	II.(5)		
	II.(6)		
	II.(7)	3.81	3.33
	II.(8)	3.84	3.42
	II.(9)	3.81	3.30
	II.(10)	3.45	3.23
	II.(11)	3.68	3.21
	II.(12)	3.87	3.48
	II.(13)	3.84	3.45
満足度	II.(14)	3.81	3.41

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 I.(1)~(3)	3.63	3.36
講義内容・方法 II.(4)~(13)	3.70	3.30
総合的満足度 III.(14)	3.81	3.41

授業年度	2017年度後期
時間割番号	21110
科目名	生活科指導法
教員名	善野 八千子

①授業計画の達成度について

学習指導要領と教科用図書を活用した授業は、達成度に反映できた。「生活科に対する意識や考え方が変わった。低学年でよい生活科を受けた児童は必ず良い方へ進むと思った。」等の記述にも見られた。特に、低学年の設定科目として、幼児期との接続を強調した。さらに、中・高学年の社会科・理科、総合的な学習への発展などへの連続性を系統的に見ることも重視した。学生は、意欲的で私語対策など必要としない状況であった。一層、教師の資質向上に資する幼小接続のスペシャリスト育成のための工夫をしていく。

②授業の進め方について

授業構成は、学生が「朝の会」の設定で「健康観察」(出欠確認)、模擬授業の設定解説及び準備並びに実際、模擬授業に対する学生の相互評価と教員による講評(改善のポイント)、振り返りシート記述である。特に、体験を重視した科目の特性から室外での活動事例も推奨し、制作活動なども課外で時間を要した。指導案作成にあたっては、課外で、メール添削指導及びリハーサルを毎週行った。全員が模擬授業を個人で実施し、教育実習前の課題を明確にした。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

「総合的満足度」3.81は、「実際に近い雰囲気毎回学べた」「模擬授業を通して、次の活動に役立つコメントが毎回あった」「学校現場で何が起きているのか、1つ1つ丁寧に指導してくれた。『遊びから学びへ』がはっきりしていた」等の記述に見られる。また、学生と教員の双方向の対話による授業の活性化も効果的に行われた。今後は、復習による学習の定着という必然性から、学びのサイクルが好循環して力となるように改善していきたい。